

館報 教育記念館

No. 96
令和3年3月 発行

第11回 児童・生徒による ものづくり展



第51回 富山県造形教育作品展

主な内容

- ◎教育時評 「今、私が伝えたいこと ～子ども時代の出会いから～」
株式会社ユニゾーン代表取締役会長 梅田ひろ美 2
- ◎後期恒例展等から 4
「児童・生徒によるものづくり展」「富山県造形教育作品展」
「アイデアロボット展」「富山県中学校美術展」
「富山県版造形教育作品展・秀作回顧展」〈朝乃山コーナー〉
- ◎わが校の歴史から 6
★下新・泊高等学校 ★富・水橋高等学校 ★高・高岡西高等学校
★南砺・南砺福光高等学校 ★南砺・井口小学校 ★南砺・井口中学校
- ◎「学ぼう！ふるさと未来」支援事業実践活動報告会 8
令和3年度の展示計画 あとがき



発行所／公益財団法人 富山県ひとづくり財団 富山県教育記念館 〒930-0018 富山市千歳町 1-5-1
TEL (076) 444-2000 FAX (076) 444-2001 E-mail: toyama@t-hito.or.jp http://www.t-hito.or.jp
(教育記念館会議室ご利用の場合 ☎(076) 433-2770)
発行人／富山県教育記念館 館長 富田 利通 印刷所／いおざき印刷株式会社



今、私が伝えたいこと ～子ども時代の出会いから～

株式会社 ユニゾーン
代表取締役会長 梅田ひろ美

巻頭言の執筆にあたり、私のようなものが先生方皆様のご覧になる館報に執筆させていただくことは大変恐縮でございますが、ご縁をいただきまして、書かせていただきます。

学生時代の思い出をいくつか申し上げます。

転校の経験は人生に一度、小学校1年生の夏休みです。立山中央小学校から富山市柳町小学校に転校をしました。体が小さかったこともあり、転校し新しい学校になじめるかどうか、とても怖かった記憶があります。恐る恐る校門をくぐり、しかしその時暖かく迎え入れてくれたそのお友達とは今でも良い関係を築いています。

先生方には、今も存分に対応されておられるかとは思いますが、転校生へのケアを十二分になさってください。傍から見て大丈夫そうに見えても、小さな心は今にもつぶれそうかもしれません。先生や同級生の一言が、転校生にとってどんなに大きいものとなるか。新たな風を運んでくるその子供は、クラスの絆を深め

るチャンスとなるでしょう。

私は今、古希を過ぎて数年たちます。県内の高校を卒業し東京の短大に進学いたしました。50年以上前のことですので、その頃、東京の短大に進む女子生徒はそこまで多くはなかったと記憶しています。富山での生活との違い、何も知らない田舎娘でしたので見るもの聞くもの全てが新鮮で刺激の連続でした。

四年制大学の学生さんたちの中には、学生運動で休校の方もおられ、誘惑に弱い私はその学生さんたちと学校をエスケープしていました。学校の座学だけではなく、社会とのつながりを得た初めての経験でした。

富山をはじめ、地方出身の学生は都会に進学すると我々の想像以上に「はじめて」しまう嫌いがあるかと思います。しかし、最近は新型コロナウイルスの感染拡大により大学ではリモートでの授業が多いと聞いています。やはり、学生時代の醍醐味と言え人々とのつながり、多様性との出会いかと思います。今の状況を、とても憂慮しています。

先生方には、卒業しても学生たちを気にかけてあげてください。学生からの連絡は、もしかしたら必死の訴えかもしれません。

小学校から短大の先生方は、このような型にはまらない私のことを優しく、時に厳しく接してくださいました。卒業してから自分のことを覚えていてくださるのは大変嬉しいことです。慈愛に満ちた言葉は、一生心に響くものであるなとしみじみと思い出されます。

さて、私はユニゾーンに入社し早いもので30年以上が経ち、その中で社長を約15年務めました。在任中は、リーマンショックの影響も大きく、会社経営の大変さを経験しました。私自身、父から受け継いだ会社ですので創業者である父のことを触れさせていただきます。

父は田舎の五男坊、丁稚奉公から出征・シベリアに行き、私たちが想像も出来ない経験をしております。不二越さんの研究所で勉強させていただき、経験を積んで独立をしました。創業者の苦勞を傍で見ているので、私は絶対にめっき屋を継がない、継ぎたくないと心にずっと思ってきました。お友達の家のように、お父さんが早く帰ってきて、土日一緒に過ごしているのにすごく憧れました。

でも、運命は変えられても宿命は変えられない。なんとなく私は継ぐことを強

いられてしまった形ではありましたが、「女だから」とか言われることのないよう、精一杯努力してきたつもりです。

企業というものは生き物であって、その生き物を大事に育むというそういう気持ちでこれまで経営をしてきました。創業から今まで、小さな会社から一つずつ、一步一步やってきて、父から受けたバトンを息子に渡し、経営からは一線を引いております。

現在、進学で富山を離れると県内に戻ってくる学生は少なく、Uターン就職のPRに県も躍起になっていると聞きます。我々経営者としては、魅力的な企業、就職先を1か所でも増やすことが責務かと考えています。

最近は少子化の影響もあり、社会全体で地域の子供を育て、慈愛を込めて叱るということは無くなってきているかと感じます。しかし、いつの時代も人は宝です。ものづくりも人づくりも社会の永遠のテーマであり、どのような環境でも生き抜く力をつけるため、尽力していただいている先生方には頭の下がる思いです。

コロナ禍が早く収まり、マスクを外して手を取り合いながら、気兼ねなく友達と遊べる日が一日も早く戻ることを願ってやみません。一人ひとりが輝ける世の中を、皆でつくっていきましょう。



後期恒例展 1



第11回 児童・生徒によるものづくり展

10月22日(木)～11月15日(日)

県内には、高岡市のもものづくり・デザイン科の取り組みをはじめ、伝統的、創作的な作品の製作に取り組んでいる学校が多くみられます。コロナ禍の影響で、今年度は春から秋へと開催を変更しましたが、小・中・義務教育学校・特別支援学校・高等学校32校から209点の作品が寄せられました。「…地域によってそれぞれの伝統等を大事にしながら子供たちも地域独特の作品を作りあげているんだなと興味深く拝見させていただきました」等の感想が寄せられました。来場者はじっくりと作品を鑑賞し、作品の多彩さに驚いたり、技術の高さに感心したりしていました。



第51回 富山県造形教育作品展

11月21日(土)～12月6日(日)

幼稚園・保育園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校約80校から、それぞれの年代の個性あふれる作品348点が集まりました。各発達段階の子供たちの作品から成長とともに、思いや願い、夢などが感じ取られました。今年度は、コロナ禍の影響でギャラリートークは中止となりましたが、例年以上の方が来館し、作品鑑賞を楽しみました。

「楽しい、力強い、美しい…等のたくさんの作品に囲まれ幸せを感じるひとときになりました」「絵画も工作も発想豊かな作品が多く、子どもの感性はすごいです」等の感想が多く寄せられました。



第31回 富山県中学校美術展

1月22日(金)～2月7日(日)

県内全ての78校の中学生による個性あふれる作品195点を展示しました。

日頃の美術科の学習や部活動の中で制作された作品には、対象への迫り方、色合いや質感、構成等、個性があふれ、目を見張るものが数多くありました。

「中学生なのにレベルが高く、本当に同じ中学生？と思いました」「世界観が自分と全く違っていて、こんな風に考える捉えることができるんだと思いました。とにかくすごい！」等、中学生自身の感想も多くありました。





後期恒例展②



第16回 アイデアロボット展

12月12日(土)～1月10日(日)

県内にはロボット製作に取り組んでいる学校が多く、近年は全国・地方・県で開催される競技大会（「ロボコン」）において、優秀な成績・成果を修めるチームが生まれています。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、各種大会が中止あるいは縮小されましたが、本ロボット展は、そうした中でもあきらめことなく意欲的に取り組んでいる中学校、工業高等学校、高等専門学校のロボットを一堂に集め、展示・公開しました。



第14回 富山県版造形教育作品展・秀作回顧展

2月17日(水)～3月21日(日)

過去に当館で開催された「県版造形教育作品展」の中から、平成16年から20年の優秀作品113点を展示しました。紙版や木版、銅版、ステンシルなど、発達段階に応じ様々な技法で製作された個性豊かな作品が見られました。また、平成10年代後半の図画工作・美術科における素材や技法に加え、当時の子供たちの暮らしぶりを作品から垣間見ることができました。



来館の際には、是非、大関とのツーショット撮影をしてみてください。

どやまの宝再発見！

『朝乃山コーナー』

記念館の1階フロアの一角に、等身大の朝乃山のパネルと応援メッセージ貼付ボードが設置してあります。本場所開催時には、番付表や勝敗表、過去の富山県力士の紹介等も行っています。



富山県立泊高等学校



悠遠の光

「恵み豊けき越路の要」で始まる本校校歌。本校は、昭和15年に創立された町立泊実科高等女学校を濫觴としている。昭和23年「富山県立泊高等学校」と改称、全日制普通科の設置後、定時制普通科、家政科、商業科と増設されたが、幾度の変遷を経て、現在は全日制普通科単独校に。

平成17年から募集を開始した観光ビジネスコース、その地域をフィールドにした学びは、平成11年から朝日町立朝日中学校とともに取り組んだ中高連携推進事業と相まって、泊高校の特色の一つとなっている。

「ともに世紀の暁鐘撞かむ」…令和2年、本校はその誕生から80年の星霜を重ねた。校歌の一節にある「暁鐘」とは、夜明けを知らせる鐘のこと。今、夜明けを知らせる鐘の音が、新しい時代の到来を告げている。この学び舎から校歌が聴かれなくなることは、誠に淋しい限りである。しかし、これまで培われてきた伝統と地域に根ざした教育は、新高校においても着実に引き継がれていくものと確信する。

富山県立水橋高等学校



スピリットの継承

本校は、富山県置県100年にあたる昭和58年4月7日、県内唯一の体育コースを有する普通科高校として開校しました。「心を極め 道を拓く」の校訓のもと、「考える人間」「たくましい人間」「あたたかい人間」の育成を教育方針として、生徒と教職員が心をついに、豊かな学校生活と輝かしい校風・伝統を築いてきました。生徒のほとんどが4年制大学等への進学を希望し、学習と部活動の両立を果たしています。また、体育コースでは、競技力の向上を目指し鍛錬した結果、インターハイ、国体等の全国大会において、優勝や上位入賞などの輝かしい成果を挙げています。さらにオリンピックなどの国際大会に出場する選手もあり、彼らの活躍や生徒たちが持つスポーツマンとしての元気の良さ、礼儀正しさなどが、活力に満ちたさわやかな校風を築く一助となっています。

令和4年3月、水橋高校は39年の歴史に幕を下ろし、富山北部高校へ伝統のたすきを繋ぎます。水橋高校が作り上げてきた「水橋スピリット」を「富山北部スピリット」として昇華させ、未来へ継承されていくことを期待します。

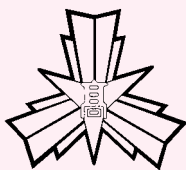
富山県立高岡西高等学校



五つの時代を歩んで

本校は明治40年に富山県立高岡高等女学校として設立されました。戦後の学制改革により、昭和23年4月に普通科の女子単独校として高岡女子高等学校となり、同年9月には、県下の高等学校の統廃合と学区制の実施により、普通科と商業科を設置する男女共学校として高岡西部高等学校となりました。その後、家庭科の設置、普通科の募集停止や復活を経て、昭和32年に普通科と被服科（のちに家政科に改称）からなる高岡女子高等学校となり、昭和42年に衛生看護科が設置（平成13年募集停止）、平成8年には家政科が募集停止となり、普通科に人間福祉コースが導入されました。そして、平成9年、男女共学化に伴い現在の高岡西高等学校と改称しました。以来、高岡女子高等学校から受け継いだ校訓「聴く 豊かに たくましく」のもと、学習活動、学校行事、部活動、ボランティア活動等に取り組んできましたが、高岡高等学校との再編統合により、令和3年度末に115年の歴史に幕を下ろすことになりました。

富山県立南砺福光高等学校 地域との連携を大切に



本校は昭和33年に富山県立福野高等学校福光分校として創立され、昭和35年には地元福光の強い要望と支援により、福光高等学校として独立しました。それ以降、地域や時代の要請に応え、普通科、家政科（家庭科）、産業科、商業科（国際経済科）、機械科、国際科という学科を開設し、地域の高校としての使命を果たしてきました。校名も南砺総合高等学校福光高等学校、さらに南砺福光高等学校へと改称されました。これまでに1万2千名を超える卒業生を輩出し、多くの同窓生が各界で活躍しています。本校は地域に学び、地域を誇りとできるような真の国際人を育成することを目標に、地域と連携し、探究活動やボランティア活動等を推進してきました。また、中国の稽山中学やオーストラリアのバックリーパークカレッジとの相互交流等、国際理解教育にも力を注ぎました。令和2年度から再編統合が始まり、本校の歴史と良き伝統は、新高校である南砺福野高等学校に受け継がれることとなります。

長い歴史に幕・統合 新たに義務教育学校「南砺つばき学舎」に

南砺市立井口小学校



思いをカタチに

本校は、「第六大学区第十三中学区第四十九番小学区井口小学校」として、明治6年12月11日に光徳寺を仮校舎に創立し、147年もの長きにわたって学びの道をつなぎ、今日に至ります。校歌にある「敬止」（学ぶ者は風格があり、光り輝いており、いつも徳風を慕う）の思いが脈々と継承され、「優しい心」「強い心」「感謝の心」が地域に息づいています。また、平成2年度に学校給食優良校、令和元年度に子供の読書活動優秀実践校として文部科学大臣表彰をいただいたことは本校の誇りです。

これまで、縦割り班による「あかそぶ」活動や椿栽培等、小規模校のよさや地域の教育力を生かし、みんなの「思いをカタチに」することを根幹にした学校づくりに努めてきました。引き続き、ハワイや北アイルランドの現地の子供たちとの外国語による交流学習、一人一人の興味・関心を基に学び進める「自学の時間」等、南砺つばき学舎の特色を打ち出しながら新たな歴史を刻んでいきます。

南砺市立井口中学校



地域と共に

本校は、昭和29年に正式に井口村立井口中学校として誕生してから66年、「教育の村、井口」の根幹である「子供は家庭で育て、学校で鍛え、地域で磨く」の言葉どおり、学校、家庭、地域が一体となって子供の教育に尽力してきました。「村に学校を！」という学校存続の願いは、今も昔も同じです。その魂が脈々と受け継がれ、令和3年4月、本校は南砺市初の義務教育学校「南砺つばき学舎」として、新しくスタートします。一人一人を大切にした学習指導、地域の指導者に支えられた部活動、地域と共に行う「椿まつり」やボランティア活動等、その一つ一つが生徒を成長させています。特にソフトテニス部やバドミントン部の全国大会出場、作文や俳句等の文芸作品の数々の全国入賞は、自己研鑽の表れであり、生徒たちの励みとなっています。これからも自他共に高め合い、心身ともに豊かな人を育てる学校でありたいと思います。

「学ぼう！ふるさと未来」支援事業 実践活動報告会

令和3年2月15日(月)

※ 詳しい活動の様子は、財団ホームページに各校の実践報告書として掲載されています。

朝日町立さみさと小学校

講師の先生方の熱い思いを受け止めながら、実物に触れたり、実際に体験したりすることにより、地域の魅力を再認識することができた。



富山市立蜷川小学校

地域のために奮闘する個人や団体をゲストティーチャーとし、その方々との交流を通して、蜷川っ子であることに誇りをもつことができた。



富山市立水橋西部小学校

地域の方々から学ぶことで、地域のよさや素敵さに気付くことができ、また学んだことを発信することで成就感を味わうことができた。



高岡市立千鳥丘小学校

地域の特色を生かし、地域の方々との関わりを大切にした活動を通して、子供たちはふるさとへの誇りや愛着をもつことができた。



南砺市立井波小学校

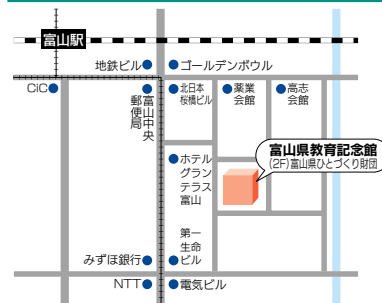
地域の諸団体と連携した体験活動の子供たちとともに企画し、活動、発信することで、地域への愛着と誇りを育むことができた。



あとがき

世界で新型コロナウイルスの感染が確認されて、はや1年以上が過ぎました。

ワクチン接種も始まりましたが、未だ収束が見通せない状況が続いています。この館報に掲載されている写真に写っている方々はマスク姿ばかりですが、それが違和感なく当たり前のようになっていきます。人類の英知でコロナ禍が収束し、笑顔の表情を早く見たいものです。



令和3年度の展示計画

- ◆企画展「肖像画で見る郷土の先賢展」
- ◆「教科書検定公開事業（検定関係資料の公開、県教委主催）」
- ◆第19回「さんすうワールド展」
- ◆第18回「子どもの目、自然不思議発見写真展」
- ◆第36回「富山県教職員厚生会退職厚生部富山支部会員作品展」
- ◆第12回「児童・生徒によるものづくり展」
- ◆第52回「富山県造形教育作品展」
- ◆第17回「アイディアロボット展」
- ◆第32回「富山県中学校美術展」
- ◆第15回「富山県版造形教育作品展・秀作回顧展」

4月12日(月)～6月20日(日)
6月26日(土)～7月5日(月)
7月14日(水)～8月26日(木)
9月1日(水)～9月28日(火)
10月1日(金)～10月10日(日)
10月20日(水)～11月14日(日)
11月20日(土)～12月5日(日)
12月11日(土)～1月9日(日)
1月21日(金)～2月6日(日)
2月16日(水)～3月20日(日)

富山駅
近く



会議室を一般の方に安価でお貸しして、打合せや趣味の活動などにご利用いただいております。
詳しくは教育記念館ホームページをご覧ください。
<http://www.t-hito.or.jp/reserve/index.html>

会議室をご利用ください！



公式Twitter

https://twitter.com/t_hitozukuri

令和3年1月に公式Twitterを始めました。
財団の取組みや富山県教育記念館の展示情報を掲載しております。ぜひ、フォローをお願いします。

